

## 平成17年度第4回理事会議事録

日 時 平成17年9月7日(水) 14:00～

場 所 日本体育協会 理事・監事室

出席者 <理事>

長沼副会長、佐治副会長、宮田副会長、岡崎常務理事、石川常務理事、  
泉常務理事、石樽、大谷、尾崎、木下、監物、小嶋、篠宮、鈴木、  
瀬尾、竹田、武田、松田、森(正)、渡邊の各理事

<委任>

森会長、奥田、斉藤、豊島、中山、樋口、古川の各理事(議長に委任)

<監事>

川口、市川

理事総数27名、うち出席20名、委任7名、計27名で寄附行為第32条に基づき理事会成立。

議案に先立ち、森会長が衆議院議員選挙期間中のため、出席できないことから寄附行為第24条第2項により、長沼副会長を議長として取り進めた。

また、前回理事会において副会長に就任した佐治信忠氏より、自己紹介がなされた。

議 案

第1号 「日本スポーツマスターズ2006」からの実施競技の追加について

(岡崎委員長)

平成13年度より開始した日本スポーツマスターズ大会は、本年度で第5回目を迎えるが、実施競技については、大会の益々の活性化と参加者の増を図るべく、本会加盟競技団体に参加意志の調査を行うなど検討を行ってきた。

また、本年、財政面と運営面の効率化をさらに高めるべく、各実施競技団体と「意見交換会」を実施した。その結果、第1回大会から実施希望のあったソフトテニス競技については、連盟関係者と競技要項、運営体制、経費見込みの確認等、具体的な協議を行い、実施についての確認をすることができた。

については、2006広島大会からソフトテニス競技を加え、全13競技にて実施したいと諮り、これを承認。

## 報告事項

### 1. 会務関係

- ・平成18年度国庫補助金概算要求について (岡崎常務理事)

去る7月13日開催の第3回理事会において、会長一任事項となっていた平成18年度国庫補助金概算要求については、文部科学省と折衝を進めた結果、平成17年度の予算に対し、6千8百81万5千円増の4億9千9百25万1千円となった。

内訳としては、「スポーツ指導者養成事業」において、従来の3事業に加え、スポーツリーダー養成講習会、ジュニアスポーツ指導員養成講習会、スポーツ指導者研修会の3事業を新規に要望したことにより増額。「アジア地区スポーツ交流事業」では、日・韓・中ジュニア交流事業において、開催地が日本から韓国となり、大会開催経費から選手団派遣経費に変更となることにより減額。「海外青少年スポーツ振興事業」は本年度と同額。

また、国庫補助金の他、文部科学省委託事業および委嘱事業である「総合型地域スポーツクラブ育成推進事業」と「地域子ども教室推進事業」及び「子どもの体力向上推進事業」の3事業については、継続して文部科学省から財務省に概算要求されており、「総合型地域スポーツクラブ育成事業」については、第3年次として、継続の200地区に新規200地区を加えた合計400地区において、「総合型地域スポーツクラブ」を育成する計画であり、総額13億6千6百万円が要求されている。

また、「地域子ども教室推進事業」と「子どもの体力向上推進事業」については、17年度と同規模の委託及び委嘱がなされるものと考えている旨を報告。

### 2. 国民体育大会関係

(泉委員長)

#### (1) 国民体育大会功労者表彰について

本表彰は、国体に通算30回以上参加した方を対象に、その発展に貢献した方々を表彰するもので、第43回京都国体より行っている。本年度は30団体より42名の方々を第60回秋季大会役員懇談会の場において表彰する旨を報告。

#### (2) 第63回国民体育大会デモンストレーションとしてのスポーツ行事の実施について

去る8月8日付にて大分県より「デモンストレーションとしてのスポーツ行事」の実施申請書が提出された。本来であれば、大会開催地の決定時に合わせて事業の実施申請書が提出され、審議するものであるが、市町村合併等に伴う手続きの関係から大分県の諸事情を勘案し、文部科

学省とも協議の上、今回提出された。本件については、去る8月11日開催の第2回国体委員会で了承されている旨を資料に基づき報告。

(3) 国体改革2003「中学3年生の参加競技の拡充」及び「種別の年齢区分の見直し」について

本件については、平成16年12月24日付文書により都道府県体育協会及び国体実施競技団体に提案し、同意された競技団体に対してアンケート調査を行った。その結果、「中学3年生の参加」については17団体、「種別の年齢区分の見直し」については6団体から導入したい旨の回答を得、各団体ごとに個別協議を行い資料のとおりとなったことを説明。なお、導入実施時期については、関係機関・団体等と調整する関係もあり、泉委員長に一任した旨を報告。

なお、9月10日から第60回国民体育大会夏季大会が開催されるが、台風14号の影響を受け、本日から開始されているシンクロナイズドスイミングについては、25mの屋内プールに変更して競技を実施している。また、ボート、カヌーについては日程及び競技種目を削減する等検討されたが、現在は台風が日本海にぬけた模様であり、今後は順調に競技が行われる予定である旨を報告。

3. 日本スポーツマスターズ関係 (岡崎委員長)

・「日本スポーツマスターズ2006」の会期について

第6回目となる日本スポーツマスターズ2006の開催地については、既に広島県に決定しているが、この度会期について広島県と調整の結果、平成18年9月15日(金)から19日(火)までの5日間と決定し、ゴルフ競技については19日(火)から21日(木)までの3日間で開催することとなった旨を報告。

4. スポーツ指導者育成事業関係 (監物委員長)

・公認スポーツ指導者等の表彰について

公認スポーツ指導者等表彰要項に基づく都道府県体育協会及び中央競技団体からの推薦者について、去る8月18日開催の指導者育成専門委員会において審査した結果、資料のとおり計198名の方々を来る12月10日開催の公認スポーツ指導者研修会の開会式において表彰することとなった旨を報告。

5. スポーツ少年団育成事業関係 (長沼本部長)

・スポーツ少年団夏の諸事業の終了について

本年度の夏の事業として、第32回日独スポーツ少年団同時交流をはじめとする国際交流事業のほか、第43回全国スポーツ少年大会等国内交流事業、並びにリーダー養成事業等の計8事業を、資料のとおり実施し、成功裡に無事終了した旨を報告。

6. 国際交流関係事業関係 (瀬尾委員長)

(1) 第13回日・韓・中ジュニア交流競技会の終了について

本交流競技会は、去る8月23日(火)から29日(月)までの7日間、北海道札幌市を主会場として開催された。日本選手団は泉正文常務理事を団長とする241名、韓国選手団239名、中国選手団242名、地元北海道選手団290名の合計1,012名が11競技に参加した。年々競技レベルも高まり、25日から27日までの競技会も資料のとおり滞りなく終了し、全日程を通して高校生らしい交流を行うことができた旨を報告するとともに、団長を務めた泉常務理事、開催地北海道体育協会専務理事の松田理事より所感を報告。

(2) 第9回日韓スポーツ交流事業・青少年スポーツ交流(派遣・受入)について

本交流は、8月16日(火)から22日(月)までの7日間、日韓同時に派遣・受入を実施した。日本選手団は、石川武常務理事を団長として、熊本県からサッカー、バレーボール、新潟県からバスケットボール、卓球、バドミントンの計5競技に212名の小・中学生を韓国・済州道へ派遣した。

また、韓国代表団の受入は、熊本県体育協会にご協力いただき、菊池温泉を宿泊地として、「熊本県民総合運動公園陸上競技場」等で資料のとおり競技会を実施した旨を報告するとともに、団長を務めた石川常務理事より所感を報告。

質疑応答

竹田理事 日・韓・中のジュニア交流競技会であるが、各国出場選手のレベルはどのような選考を経て出場してくるのか。現在、日韓中のオリンピック委員会で近い将来オリンピックで活躍できる選手のための大会を開催したいという話が出ているが、毎年このような大

会が開催されているのであれば、参考としてどの程度のレベルの選手が出場しているのか教えていただきたい。

瀬尾理事 日本は、インターハイ等に出場し、好成績を収めたトップクラスの選手を選考しているが、中国、韓国については具体的なことは聞いていない。

竹田理事 本年度は11競技であるが、毎年実施競技数は決まっているのか。  
岡崎常務理事 11競技を基本としながら、若干新しい競技を入れようという意見も出るが、ベースは11競技である。日本はインターハイの上位がこの大会に出場してくるが、韓国、中国の選手が、オリンピックに出場できる様なジュニアの選手かどうかという詳しい情報は把握してない。日韓中のオリンピック委員会でそのような動きがあるのであれば、今後うまく連携できればと思う。

竹田理事 この意見は韓国から発言されたことで、明日、明後日と中国広州でアジア・オリンピック評議会の総会が開かれることになっており、会期中に3カ国での話し合いも行われると思われるので参考としてお聞きした。

泉常務理事 大会の会期中に必ず代表者会議があり、事務局も含め様々協議を行っている。その中で予算の問題もあるが、中国からはテコンドー、柔道、水泳等を実施競技にしたいという要望が出るなど、密度の濃い会議を行っている。

長沼副会長 この大会は、青木半治元会長が在任中に、東アジアのジュニア層のレベルを高め、日中韓の友好親善を図るために働きかけを行い、その結果3カ国持ち回りで開催することになった大会である。竹田理事の言われたように少しでもレベルの高い選手を参加させ、お互いに意識をしながら、結果的に東アジアのレベルを上げることにつながられればと思う。

以上の諸報告をいずれも了承後、次回理事会は11月9日(水)14時から開催する旨を報告し、14時50分閉会。